

3. まちづくりワークショップ提言

安全・安心に関すること

1. 安全・安心なまち“寝屋川市”をめざして

わたしたちは、寝屋川市を“もっと”安全・安心なまちにしていくために、次のような考えが大事であると考えます。

“じっとしてるより、まず、行動！”

安全・安心なまちづくりの基本は、市民自ら取り組むことにあると考えます。それは、この提案書でまとめたアイデアにおいても、その役割のほとんどを「市民」が担っていることからわかります。

受け身の姿勢で「誰かがやってくれる」のを待つのではなく、「自分」が行動をおこし、安全・安心なまちをつくっていく主体になりましょう。

“まちの安全・安心は、ご近所さんとのあいさつから”

そのためには、どんな行動からはじめるべきでしょうか。

安全・安心の最も基本となるのは、住んでいる地域の「コミュニティ」であり、そのコミュニティの「地域力」の高さです。

近年では、人と人とのつながりが希薄になってきているといわれます。あらためて、あいさつのできる関係づくりからはじめてみませんか。

そして、その地域力の高さを寝屋川市から発信していきましょう。

“安全・安心なまちづくりの仲間を増やそう”

市内には、住んでいる人だけでなく、働いている人、学んでいる人など多くの人が活動しています。寝屋川市を安全・安心なまちにするのは、みんなの連携が大事です。

また、地域の中を見れば、今も様々な団体・組織が活動しています。でも、それぞれの活動がバラバラではせっかくの取り組みが活かされません。地域組織は再編・効率化し、力を合わせて取り組んでいきましょう。

2. 安全・安心の面で、寝屋川市の良い点・悪い点は？

寝屋川市の「安全・安心」について、良い点・悪い点を第1部会で出し合いました。

それらを整理すると、「防犯・治安」「防災」「衛生環境」「交通・移動」「健康・福祉」の5つのテーマに分けられました。

また、安全・安心を支える最も大事な共通基盤として「地域力・コミュニティ」があり、安全・安心を伝える「イメージ」も重要です。

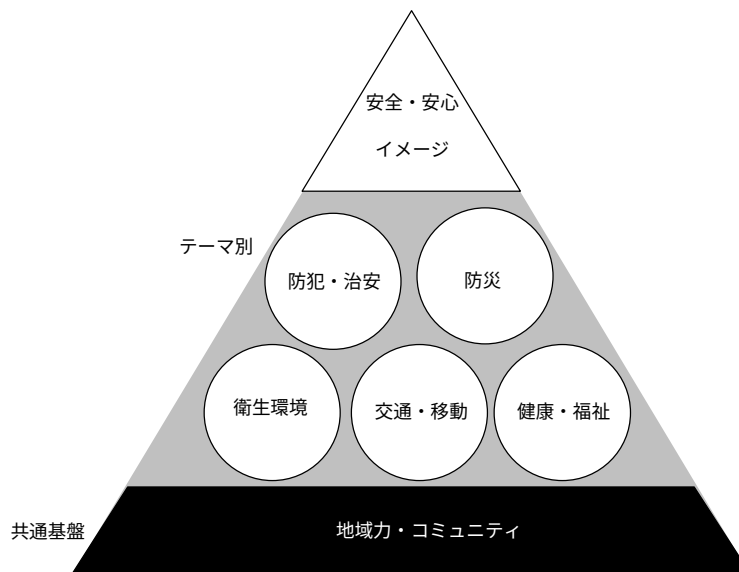


図 「安全・安心」の要素

次頁以降では、ワークショップで出された意見について、次の7項目で整理しました。

ワークショップで出てきた意見

①防犯・治安

良い点	悪い点
・ブルーライトの街灯を一部設置するなど先進的に取り組んでいる（現在4自治会で設置）（⇒街灯を設置して明るくすると、その住民から苦情が出る） ・青色回転灯の地域パトロールカー24台が配置され、登下校時にボランティアが活動している ・ホームレスが少ない ・安心・安全メールは良い取り組みである ・警察署のホームページには、安心・安全に関する情報が掲載されている。例えば、不安や怖いイメージに対するケアや対処方法（女性に対するひったくりなど）が載っている。 ・現在地認知システム（道路標識の管理データを利用して現在地を伝える青テープ）→来訪者にとっても役立つ仕組みである→市民に情報が伝わっていない ・玄関に下げる警戒中のプレートを配布している <学生の視点> ・大学周辺マップが配布されており、大学生の通学や買い物に便利→市内の小中学校でも校区別に安全・安心マップがあればよい <子どもの視点> ・子どもの登下校時の見守り隊活動が全小中学校で実施されている	・全体的に薄暗い、寝屋川市駅前が暗い（⇒夜は意外に住宅地が暗くない） ・大学への近道で痴漢が多発 ・交番が少ないのではないかと（確認が必要）、警察官が交番に不在のときがある ・通学路が安全ではない（垣根、信号） ・市民は防犯に対する注意が足りない 出典：大阪府警察 HP

②防災

良い点	悪い点
・自主防災組織がしっかりしている（小学校単位で自主防災協議会を設置） ・防災訓練は良い取組（⇒もっと市民は参加してほしい）	・道路が狭く、緊急車両が通りにくい

③衛生環境

良い点	悪い点
・水道水がおいしい ・ごみが少なくなった（⇒寝屋川浄化用水機場付近は汚い）	・どぶ川が汚い、昨年まで市から消毒剤が配布されていたが無くなった ・川を清掃する人が高齢者ばかりに偏っている（⇒子どもや学生の参加もある） <子どもの視点> ・子どもの目があるのに、大人が時々くわえタバコを道に放っている場合がある（車の中からも同じようなことをしている）

④交通・移動

良い点	悪い点
・公共施設間の移動がしやすい（シャトルバス）（⇔ルートは駅の近くも通るとよい） <自転車に乗る人の視点> ・駐輪場の整備が良くなった→放置自転車が減った	・鉄道高架（京阪）の整備が遅い <高齢者の視点> ・狭くて段差の多い歩道の自転車通行は危険 ・狭い道で左側を歩いていると、後ろから自動車や自転車に当てられる場合がある <障害者（車椅子利用者等）の視点> ・歩道、段差が多い ・歩道の無い道路がある <自転車に乗る人の視点> ・自転車と歩行者が出会い頭に追突事故を起こすことが多い ・道が狭く事故が多い ・マナーが悪い

⑤健康・福祉

良い点	悪い点
・市内に大きな公園がある、スポーツのできる公園が多い（打上川治水公園、ABC公園など）、子どもが元気に公園で遊んでいる ・桜並木が各所にあり散歩できる	・個人が健康に注意が足りない ・国民健康保険料が他市に比べて高い ・市民病院が無い（良いか悪いかは意見あり） ・60歳以上の職場が少ない（働ければ健康にも良い） <子育て層の視点> ・保育所が少ない ・小児科病院が少ない ・救急の受け入れ体制は他市と比べて整っているのか

⑥地域力・コミュニティ

良い点	悪い点
・自治会活動に熱心である ・ボランティアが多い ・地域教育協議会（すこやかネット）、子どもの安全見守り隊（⇔子どもに対する関心が低く、大人が見て見ぬふりをする）	・類似した活動団体があり役員をする人が重なる ・一人暮らしをしたときに近所のことを聞ける人が少なそう

⑦安全・安心イメージ

良い点	悪い点
・昔に比べて街がきれいになった ・マスコットキャラクター“はちかづきちゃん”は、「ゆるキャラ辞典」にも載っている	・ニュースになるような事件（殺人や窃盗など）が目立ち、他市民からのイメージが悪い ・市民がせかせかしている感じ

注）第3回・第4回ワークショップ意見より作成

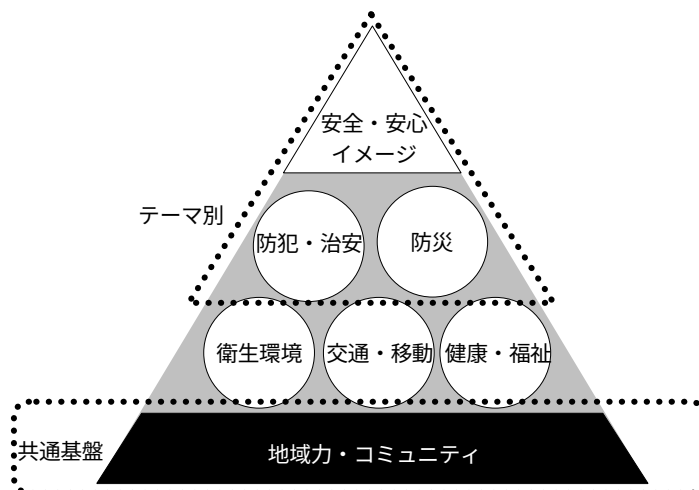
3. 安全・安心な寝屋川市をつくるためのアイデア

それでは、安全・安心な寝屋川市をつくるために、良い点を伸ばしたり、悪い点を解決したりして、私たちはどんなことに取り組んでいけば良いのでしょうか？

第1部会では、「防犯・治安」「防災」の2つのテーマと、共通基盤の「地域力・コミュニティ」、安全・安心を伝える「イメージ」の4つに絞ってアイデアをまとめました。

なお、「防犯・治安」や「防災」というテーマ別の活動は、いずれも、しっかりとした「地域力・コミュニティ」の基盤があってこそその活動になるといえます。

さらに、地域力の高いコミュニティが、事業者や行政、そして学校などとの連携も含めて市全体の活動として広がることにより、寝屋川市の「安全・安心のイメージ形成」に通じることになるといえます。



①防犯・治安

アイデア	背景・考え方	誰が担うか			市内の動き／参考事例
		市民	事業者	行政	
現在地認知システムのPR	「現在地認知システム」(道路標識の管理データを利用して、現在地を伝える青テープ)の認知度が低い	○		○	大阪府警察では、府内全域で道路標識に番号シールを貼付して通報場所を検索するシステムを運用
警察OBによる街の見回り強化	現職警察官の人員だけで不足する部分をカバーする仕組みが必要	○		○	
地域パトロールカー運用の担い手づくり	地域によっては運用回数が少なく、担い手側の事故補償に対する支援など安心して取り組める環境整備が必要	○			寝屋川市：地域パトロールカー24台配備

地域住民による安全マップづくり	地域住民が自分のものとして意識し、利用しやすいマップの作成が必要 マップ作成においては、写メールなどを活用してわかりやすく、関わりやすくする	○	○	○	吹田市青少年指導員会：「こども 110 番の家」の位置を表すマップを子どもと一緒に作成
防犯・治安活動のわが地区自慢コンテスト	各地域では、防犯・治安の情報が共有できていないので、そのためのきっかけづくりが必要	○			
「空き巣警戒中」プレートの全市拡大	玄関に下げる警戒中のプレートを自治会単位で作成し、掲示することによって空き巣に入られにくくなる	○			境橋自治会ほか：自己負担 1 枚 100 円で作成
門灯の点灯運動	夜中も安心して歩ける通りにするためには、街灯だけでなく、各戸の門灯も活用できる	○			加古川市：一戸一灯防犯運動ステッカー
不審者への声かけ運動	不審者に対して声をかけるようにすれば、地域で泥棒を見張っている雰囲気を作り出すことができ、結果的に追い出せる	○	○		
防犯バンダナを巻いた犬の散歩	犬の散歩をしている人が多いので、防犯見回りも兼ねることで、犯罪を起こさせない街の雰囲気を作り出すことが可能	○			寝屋川市：わんちゃんサークル「バウワウ」
ウォーキング防犯活動	健康志向でウォーキングをする人が多いので、防犯見回りも兼ねることで、犯罪を起こさせない街の雰囲気を作り出すことが可能	○			
防犯ボランティアの啓発活動やリーダー研修会	地域で防犯ボランティア活動をしたいと思っている人のきっかけづくりを作りだすことが必要			○	大阪府：防犯ボランティア活動ハンドブック、災害ボランティアリーダー研修会

②防災

アイデア	背景・考え方	誰が担うか			市内の動き／参考事例
		市民	事業者	行政	
防災基本情報個別チェックシートの作成	防災・防犯活動や救急等の電話番号、避難所、安全な避難ルートなどは市民が各自でおさえておくことが大事	○			

地域対抗炊き出し大会	炊き出しを地域対抗の大会で行うことにより、防災への意識を高める 災害時のように急な対応ができる練習が必要	○			現在も炊き出しは各地域で実施
防災器具の点検	防災倉庫内の器具や備品をいざというときに使えるように、もっと確認の頻度を増やすことが必要	○			現在は2年に1回の防災訓練で確認
耐震改修・建替低利融資	耐震のための改修や建て替えを進めることが必要であり、それを促進するための支援が必要			○	寝屋川市：既存民間建築物耐震診断補助制度 京都市：耐震改修融資・耐震建て替え融資
安心できる建替事業者情報の提供	知り合いによる事業者の紹介が最も安心であるが、口コミサイトとして民間（市民有志）で設置することも可能	○			
寝屋川市美しいまちづくり条例啓発ソングによるPR	駅などの公共空間で美化に関する歌が流れていれば、その考えが自然と耳に付いてくる	○			枚方市：まち美化啓発ソング「あかんのに」（堺市自治会会長作詞・作曲） 寝屋川市：美しいまちづくり条例
夜間防災訓練	防災訓練は通常、昼間に行われるが、災害は夜にも起こることが考えられることから、24時間営業のコンビニなどと協力して取り組むことも必要	○	○	○	京都市：上京区成逸学区 夜間防災訓練

③地域力・コミュニティ

アイデア	背景・考え方	誰が担うか			市内の動き／参考事例
		市民	事業者	行政	
地域内の組織に関する整理・統合*参考1・2	地域内には、防犯や防災に関する組織が多数存在するが、取り組みや担い手が重複することも多く、整理をして効率良く取り組むことが必要	○		○	寝屋川市：社会を明るくする運動推進委員会、地域教育協議会（すこやかネット）、青少年指導員会、自主防災連合協議会、防犯協会、消防団、自治会、市立校 園 PTA 協議会
防災コミュニティづくり	住民だけでなく、学校、事業者（コンビニ・スーパー）などとも連携した防災コミュニティを作ることが必要	○	○	○	

単身者向け地域活動相談窓口の設置	単身者は地域活動に参加するきっかけが無く、どこに相談してよいかわからないことが多い	○			
地域活動の人材募集に関する広報支援	地域には、様々な知恵を持つ市民がたくさんいるので、地域人材を活用する仕組みが必要	○		○	寝屋川市：市民活動センター広報紙の募集欄

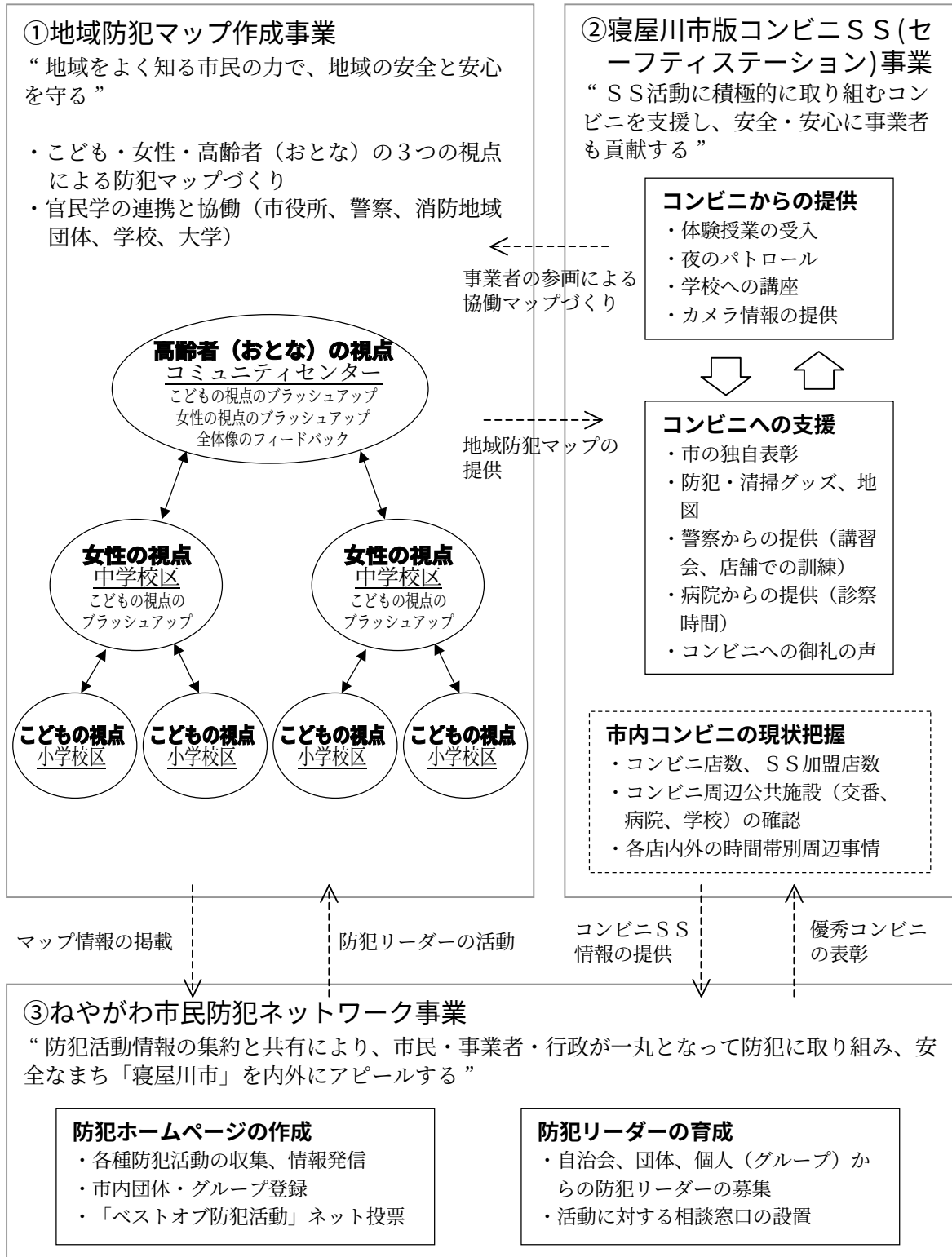
④安全・安心イメージ

アイデア	背景・考え方	誰が担うか			市内の動き／参考事例
		市民	事業者	行政	
戦略的なパブリシティ（広報・宣伝）の実施	市内の犯罪に関するニュースが発信されるたびにイメージが低下するので、逆に、安全・安心に係わる市民や行政の活動を積極的にテレビや新聞等に載せてもらう工夫が必要	○		○	
市キャラクター「はちかづきちゃん」のPR	もうすぐ誕生から20歳になり、人間で言えば成人となる「はちかづきちゃん」を活用して、寝屋川市のイメージアップを図る	○	○	○	寝屋川市キャラクター：はちかづきちゃん（平成2年誕生） 
安心できる光や音などの目印の検討	ここが寝屋川市であるという安心感を持たせられる光や音などの目印が作れないか ただし、どのような場所に行くときに迷いやすいか、その際に光や音は目印となるのか、どんな場面で必要なのかを調査し、検討することが必要	○	○		

注）第5回・第7回・第8回、第9回ワークショップ意見より作成

4. 提案モデル事業の検討

第1部会で出し合ったアイデアの中から、3つの取り組みについて、具体的な内容の「提案モデル事業」として検討しました。



注）第8回ワークショップ意見より作成

①地域防犯マップ作成事業

■地域防犯マップ作成のコンセプト

【概要】

◎防犯活動（事件・事故・痴漢等）は地域に関わる全市民が主体となって担う

（市・消防・警察等は広範な支援を担う）

※防災活動（地震・洪水・火災等）はセーフティネットとして市・消防・警察等が担う
（防災マップ・洪水ハザードマップは H18.3 作成、全戸配布済み）

◎メインコンセプト＝“ 地域をよく知る市民の力で、地域の安全と安心を守る ”

◎老若男女を問わず活用できる地域防犯マップを作成する

【期待される効果】

- ◆ 地域住民が作成するため、地域の実情に即したデータを反映できる
- ◆ 市民がみずから作成することで、防犯意識の高揚につながる
- ◆ 作成過程を通して地域住民間のつながりが深まり、地域力の向上につながる
- ◆ マップやプロセスを広報特集号やHPに掲載することで、地域ブランドの向上につながる
- ◆ 既存の各種地域組織が連携して作成することにより、地域組織の連携強化・再編成につながる

【作成のポイント】

- ◆ 3つの視点⇒こども・女性・高齢者（おとな）
- ◆ 官・民・学の連携と協働⇒市役所・警察・消防・地域組織団体・小中学校・高校・大学

【地域組織団体等の役割】

- ◆ こどもの視点で防犯対策
⇒小学校（児童・教員・保護者）・PTA・自主防災協議会・自治会等が連携・協働
- ◆ 女性の視点で防犯対策
⇒中学校（生徒・教員・保護者）・高校（生徒・教員）・大学生・地区社明推進委員会・校区地域教育協議会・校区青少年指導員部会等が連携・協働
- ◆ 高齢者（おとな）の視点で防犯対策
⇒地区社明推進委員会・防犯協会・校区福祉委員会等が連携・協働

【官公庁の役割】

- ◆ 情報収集と提供、専門的なアドバイス等の支援
- ◆ 活動場所や必要備品等の提供、公益活動災害補償保険への加入等の支援
- ◆ 市広報特集号の発行、市HPへの掲載など、市民への周知・啓発を支援

②寝屋川市版コンビニSS（セーフティステーション）事業

■SS活動（セーフティステーション）とは？

- ・ J F A（社団法人日本フランチャイズチェーン協会）の取り組み
- ・ 2002 年 警察庁がり J F Aに協力を要請して始まった



出典：(社)日本フランチャイズ
チェーン協会 HP

○実施企業（コンビニエンスストア）：13社 約4万店

- ・ am/pm ・ ココストア ・ サークルK/サンクス
- ・ セブンイレブン ・ デイリーヤマザキ
- ・ ファミリーマート ・ ローソン など

○目的や役割

- ◆ 地域社会（住民・顧客）の安心安全の貢献
- ◆ 地域社会とのコミュニケーションの確立
- ◆ C V S（コンビニエンスストア）の社会的責任への貢献
- ◆ 日常業務へのセーフティステーション活動の取り込み

○活動のテーマ

- ◆ 安心・安全なまちづくりに協力
自主防犯（万引き・強盗）・女性、子どものかけこみ
- ◆ 青少年健全育成への取り組み
酒、タバコ、成人誌の販売禁止
たまり場化の取り締まりや防止
- ◆ 日常業務とコミュニケーション
清掃、交流、安全安心の情報発信

○事例

- ・ 中学生の体験授業の受け入れ→教育
- ・ 急病のお客様、女性や子どものかけこみに対する対応→119、110
- ・ 振り込め詐欺、強盗の通報→110
- ・ パトロール（昼&夜間）→地域

○寝屋川市内表彰店

- ・ サークルK寝屋川石津店：女性のかけこみ
- ・ サンクス寝屋川清水店：女性のかけこみ

■寝屋川市版コンビニSS事業

○現状把握 →地域を知る← Why

Who：小学生

What：地図づくり

When：いつでも OK

Where：各地域で

Why：地域を知る

How：歩いて、あるいは地図から

- ・SSの加盟店は？（ポスターから確認）
- ・コンビニの数（地域ごとに）
- ・周りの施設の確認（交番、病院、学校）
- ・各店舗の様子（時間ごとに）※24時間営業でないケースもある
→外と内 ☆いろいろな目線があってもよい
- ・実際何かSSに関する事例はあるのかどうか（聞き取る、自慢大会にて）

○コンビニを支援+何か提供

- ・市からの独自の表彰+支援（防犯グッズ、清掃グッズ、地図？）
- ・警察からの提供：防犯グッズ+何分で駆けつけられるか+店舗での訓練+講習会
- ・病院からの提供：診療時間
- ・コンビニへのありがとうの声
- ・余裕の提供（SSに取り組めるような）

○コンビニからの提供

- ・体験授業の受け入れや夜のパトロール
- ・学校への講座（たばこは、絶対買わせないよ!! 断り方のケース、万引きしたらこうなるぞ!!）
- ・カメラの情報

③ねやがわ市民防犯ネットワーク事業

市民、企業、行政が一丸となって防犯に取り組むことにより、安全なまち「寝屋川市」をつくっていくとともに、内外的にアピールする。

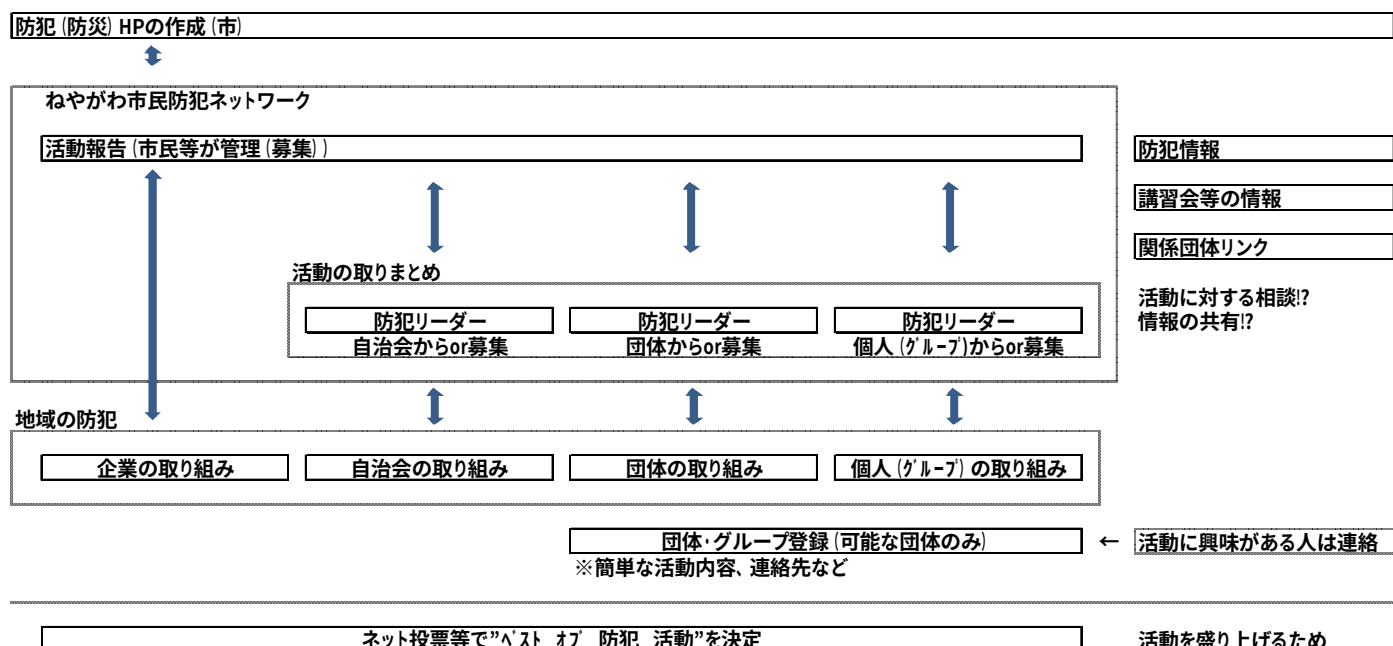
(取り組み)

◆ 防犯 HP の作成

情報提供、活動を盛り上げる

◆ 市民防犯ネットワーク、防犯リーダーの設置

各活動の把握、情報の共有、集約、活動に対する相談窓口



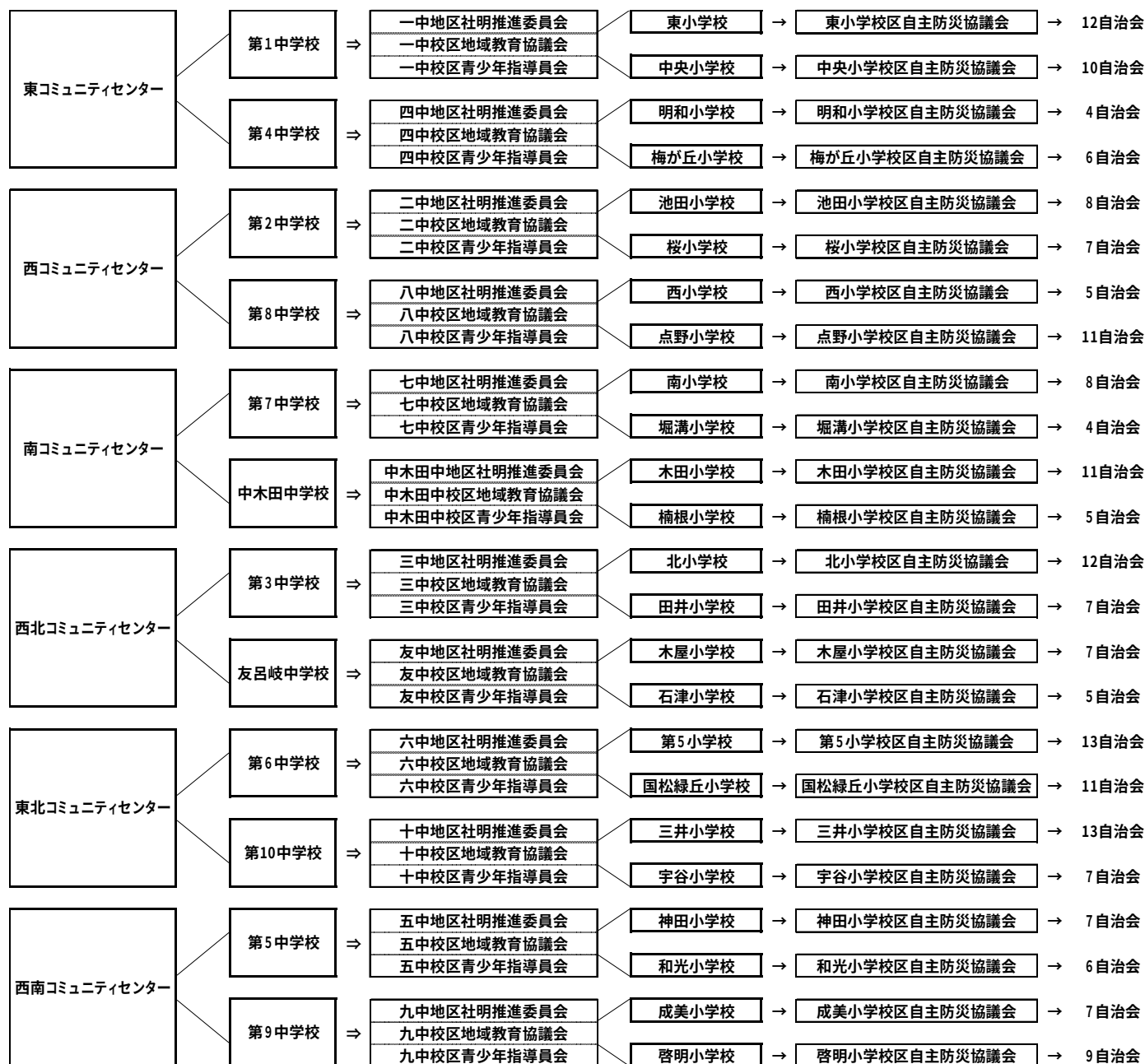
(事例) 横濱防犯まるごとネットワーク <http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/bouhan/safety/>



(参考 1) 市内の防犯・防災等に係る各団体の概要

団体名等	概要等
社会を明るくする運動推進委員会	寝屋川市社会を明るくする運動は、明るく住みよいまちをつくりあげることをめざし、3項目（まちを明るく清潔にする運動、人権意識を高める運動、青少年の健全育成を進める運動）を重点目標にしているいろいろな活動に取り組んでいる。 ※運動を推進するため、各中学校区に地区推進委員会を設置。
地域教育協議会（すこやかネット）	地域教育協議会は、学校・家庭・地域が協働して教育コミュニティづくりを進め、顔と名前が一致する人間関係を築く中で「地域の子どもは地域で育てる」という機運を醸成し、地域が一体となって子どもの健全育成を図っていく目的で、平成12年度に市内12中学校区に設立。 ※幼・小・中学校教職員とPTA、自治会、社会を明るくする運動推進委員、青少年指導員、民生委員児童委員など地域の方々と構成。
青少年指導員会	120名（各中学校を1校区とし、10名以内の指導員を配置）の青少年指導員が青少年の健全育成を図るため、寝屋川市内における青少年活動を積極的に促進し、青少年に深い愛情と理解をもって良き相談相手となり、よりよい社会環境づくりの推進役となるよう、指導員としての知識の習得と調査研究を図りながら次のような活動をしている。
自主防災連合協議会	寝屋川市内の自主防災組織の育成と、小学校区で構成する自主防災協議会の活動の活性化及び自主防災協議会相互の協力体制の確立を推進し、地域防災力の向上を図る。
子どもの安全見守り隊	各小学校区において、自治会・PTA・防犯委員をはじめとした地域の方々と「子どもの安全見守り隊」を組織し、子どもたちの安全確保のため、登下校時の見守り活動や、地域パトロールカーによる巡回パトロールを実施。
防犯協会	地域における防犯意識の高揚を図るとともに、地域住民及び事業者等の自主的な防犯活動を推進することにより、地域安全を確保し、もって犯罪のない安心して暮らせる明るい寝屋川市の実現を目指すことを目的とする。 ※11交番（16支部）から構成。
消防団	消防団は、本業を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神に基づき、地域の安全と安心を守るために活躍している人たちが集まる市町村の消防機関の一つ。 ※6分団、32班（団員は非常勤職員）
自治会	住民相互が協力、連携し、自分たちの住む町を良くしていこうとする組織。市は自治会に対して被害調査、非常災害時の連絡等協力依頼している。 ※195自治会
市立校園PTA協議会	子どもたちの健全育成をめざし、三専門委員会（生活指導連絡委員会・成人教育推進委員会・広報活動研究委員会）を組織し、専門的な立場に立って活発な活動をしている団体。 ※単位PTA45校園（幼稚園9園、小学校24校、中学校12校）

(参考2) 寝屋川市地域組織関係図



【地域エリアの単位】

コミュニティセンター⇒6館（4小学校・2中学校に1館）、公立中学校⇒12校（2小学校に1中学校）、公立小学校⇒24校

【地域団体等】

＝中学校区単位＝

①地区社明推進委員会 ②地域教育協議会 ③青少年指導員会（※校区青少年指導員部会：1校区10人以内）

＝小学校区単位＝

①自主防災連合協議会（※小学校区自主防災協議会）

＝その他の単位＝

①防犯協会⇒交番単位（11交番・16支部 ※交番管轄区が広い地区は2支部あり）

②消防団⇒6分団・32班（※団員は非常勤職員）

③自治会⇒195自治会